1大会3アーチ! 輝く背番号16

THE LEADER

森島 光星 外野手

Kosei MORISHIMA

中部大春日丘（愛知）2年

Profile

- 生まれ／2007年7月17日、名古屋市
- サイズ＆投打／175㌢、76㌔。右投右打
- 球歴／大高小1年時に森の里少年野球クラブで始め主に投手。大高中ではSASUKE名古屋ヤングに所属し投手、一塁手。中部大春日丘では1年秋に背番号14でベンチ入り
- 50㍍走／6秒3
- 高校通算本塁打／5本（秋の県大会終了時点）
- 好きな選手／高橋宏斗（中日）

今夏はベンチ外、秋は背番号16。「調子が悪かったり、けがをしたわけではなく、練習試合など大事な場面で走塁ミスやサインの見落としをしてしまって」と苦笑するレギュラー当落線上だった男が、秋の愛知で光星の名のごとく輝いた。

公式戦初スタメンとなる「6番・左翼」として出場した県大会初戦の千種戦で3安打1本塁打。斉藤監督の抜てきに猛打で応えてみせると、4番に昇格した2回戦では享栄のプロ注目左腕・小山隼和②から2打席連続本塁打を放つなど、3安打3打点の大暴れ。「小山君は中学時代も試合をやっていて負けっ放しだったので、高校に入って、打ててうれしい」。春夏通算19度の甲子園出場を誇る春の県王者を5―1で破る立役者となった。

獲得したレギュラーの座は死守する。真価を問われる重圧の中、臨んだ愛工大名電（3回）戦。2年連続センバツを狙う相手から徹底的な内角攻めに遭い、左翼手がフェンス手前に張りつくなど長打への厳戒態勢を敷かれても、ペースは乱されない。6回の第3打席、持ち前の強いスイングで左前打を放つと、冷静に見極め2四球を選び取る。延長10回タイブレークの末に3―2で制した激闘でサヨナラのホームを踏むなど2得点。派手な活躍はなかったが、レギュラーの仕事を全うした。

県内の名門を続けて倒し、8強入りした秋は全4試合で安打を記録し14打数8安打の打率・571。「打ち方を含めて特に何かを変えたわけではないんですが、ボールが良く見えています」と振り返る。好調の要因が明確でないだけに慢心がないと同時に、責任感も芽生えてきている。「1年夏から出ている（主戦左腕で中軸の主将）水野（拓海②）に頼ってばっかりなので、せめてバッティングでは水野に負担を背負わせないようにという気持ちでやっている」。

首脳陣や仲間からも信頼を得てきた背番号16は「チームメートに頼られる、相手には打線の中でも一番怖いと思われるようなバッターになりたい」。初の甲子園出場を見据えるチームの主軸として、勝利へ導く打撃を追い求める。

Coach's EYES

斉藤 真 監督（43）

「中学時代から身体能力が高く、振ること、投げることで力の強さを感じていた。レギュラーではなかったが、（高校で）『何とか育てたい』と思えた選手。（入学後は）試合でミスをして叱ってきたこともありましたが、真面目にコツコツと練習してきた。スイングスピードの速さが武器で、大会中は『思い切ってやろう』と声を掛けていましたが、（秋の県大会の）千種（初）戦で結果を残し、代えることができない選手に成長してくれました」

photographed by 佐藤彰洋